

まちの話題



ISA City Topics



おめでとうございます



富ヶ丘自治会のすずらん同好会の関係者が市長を訪れ、「第16回観光まごころ県民運動きれいな観光地づくり表彰」の「花いっぱい運動部門」で表彰されたことを報告しました。

富ヶ丘自治会のすずらんは昭和42年に長野県から取り寄せた1,000株を植えたことに始まり、毎年4月下旬になると今では約1万株がかわいらしい白い花を咲かせます。

すずらん同好会長の福山美津子さんは「名誉ある賞をいただいて大変うれしいです。これからも地域のみんで大切にすずらんを育てていきたいと思います」と受賞を喜びました。



北薩病院副院長兼小児科部長の福重寿郎さんが、第41回母子保健奨励賞を受賞しました。これは母親と子どもの健康増進に功績を挙げた人に贈られる賞で、九州では2人が表彰されました。

福重医師は「伊佐健やか子どもネットワーク会議」を設立し、保健師や保育士、療育機関と連携した地域の子育て支援の充実に貢献していることが高く評価されました。

12月16日、市長に受賞を報告した福重医師は「地域医療における、行政の協力に感謝します。伊佐には優秀な医療スタッフ・保健師等も多いので、これからもみんなで協力して、安心して子育てできる環境づくりに努めていきます」と話しました。市長も福重医師に対し、これまでの功績とご尽力に感謝を述べました。

厄を払って、安泰を祈願

1/1~4



伊佐市一円にて鬼火たきが実施されました。

近隣5自治会で作る木ノ氏地区の鬼火たきには約40人が参加し、今年厄年を迎えられた人や年男年女が竹の櫓に点火しました。

時折バンバンと破裂音を響かせて、火花を散らしながら燃え盛る鬼火たきに、子どもたちは声をあげて驚いていました。

木ノ氏地区村づくり委員長竹之内雄二さんは「五穀豊穡、無病息災を祈念して、鬼火たきを今年も無事に開催できてよかった。今後も地域の行事として継続していきたい」と意欲を語りました。

一生懸命は本当にかっこいい！

12/22



鬼武蔵公演実行委員会

伊佐市文化会館で「現代版組踊 鬼武蔵～TADAMOTO 忠元」が上演されました。

「ある日、海音寺潮五郎先生の書斎から未発表原稿が見つかった。その内容は、西郷隆盛が歴史的な一大決心をした背景には大口地頭・新納忠元公の存在があった」というストーリー。

伊佐の礎づくりに生涯を捧げた郷土の偉人・新納忠元公の生き様を、チームちむどんメンバー（伊佐の小中高校生）が熱演。また、北海道・福島・沖繩の現代版組踊チームからもメンバー

が駆け付け、役者の迫真の演技や躍動感あふれるダンス、郷土芸能踊り、バンド演奏など総勢100人を超える迫力満点のパフォーマンスに会場からは大きな拍手が送られ、大成功のうちに幕を閉じました。

火災から文化財を守る

1/19



第66回文化財防火デーに伴い、市内の白木神社・郡山八幡神社・祁答院家住宅・箱崎神社において防火訓練が行われました。

文化財防火デーとは、昭和24年1月26日に法隆寺金堂の火災により貴重な文化財が焼損したことを教訓として、文化庁と消防庁が毎年1月26日を「文化財を火災、震災その他の災害から守るとともに、全国的に文化財防火運動を展開し、国民一般の文化財愛護に関する意識の高揚を図る日」と定めた日です。

伊佐市においても、文化財関係者や消防署職員、消防団員の方々が訓練に臨み、通報から放水、鎮火するまでの手順を確認しました。

冬場は空気が乾燥し火災が発生しやすい季節です。火の取扱いに十分ご注意ください。

新成人の晴れ姿

1/3



伊佐市成人式が文化会館で開催され、色鮮やかな振袖やはかま、スーツを身にまとった191人の新成人が式典に参加しました。

新成人を代表して小門真也さんが「東京の大学に進学したことで、ふるさと伊佐への想いが強くなりました。両親に感謝し、大人としての自覚をもった社会人になります」と抱負を述べました。

地域の先輩を代表し、青年団長の石神龍佑さんは「社会の荒波に負けない、遊び心を持った大人になってください」とエールを送りました。

また「夢発表コーナー」や、「学生時代の写真」「恩師からのビデオレター」のスクリーン上映が始まると、会場は大きな笑い声と拍手に包まれました。

感動をありがとう

12/27



2019シーズン限りで現役を引退した鹿児島ユナイテッドFCの赤尾公選手が、市長を表敬訪問しました。伊佐市が、鹿児島ユナイテッドFCの前身クラブであるヴォルカ鹿児島の活動をサポートしていた縁で、所属選手らが市内でサッカー教室を開催するなど交流が続いています。

赤尾選手は「伊佐市の皆さまには、ヴォルカ鹿児島時代から温かい応援をいただき本当に感謝しています。選手としてのキャリアは終わりますが、これからもサッカーを通じて恩返しできるような活動をしたいと思っています」と話し、J2公式戦で使用された記念ボールを市に寄贈されました。

ビジネスプランコンテストで大賞を受賞



伊佐市の地域おこし協力隊として活動中の林峻平さんが、12月15日に開催された鹿児島県ビジネスプランコンテストで見事大賞を受賞されました。

1次審査を突破した9人が登壇し個性あふれる新ビジネスの展望を発表するなか、林さんは「薪を燃やして地域を熱くする！地域資源活用による伊佐“不便化”計画！」と題して、火とともに暮らす宿をつくる計画をプレゼンし、高く評価されました。

林さんは「とにかく伊佐に来てほしいという熱意をプレゼンに込めました。大賞をいただき、身の引き締まる思いです」と話しました。

大口高校生が地域の魅力を再発見

「冬休み！ビオトープ探索会～絶滅しそうな植物を探せ！～」があったらし村（宮人）で開催され、羽月西・菱刈小学校の児童や大口高校生とあったらし会のスタッフ等54人が参加しました。

会場のあったらし村は、宮人川の水質浄化のために国土交通省鶴田ダム管理所が整備した「ビオトープ」という施設で、自然環境保全等を目的に活動するあったらし会が維持管理しています。

ビオトープの魅力を子どもたちに伝え、自然環境や植物に興味を持ってもらおうと大口高校生が企画した「インスタ映えツアー」では、カラフルに飾りつけられた施設内での写真映えするスポットを巡り、工夫を凝らした写真撮影会に子どもたちは大喜びでした。

〈地域おこし協力隊 小仲〉



1/7

